

一般社団法人日本真空学会 合併に関する会員説明会 報告書

開催日時：平成29年3月31日(金) 13:00-15:00

開催場所：島津製作所関西支社マルチホール

参加者：正会員6名、法人会員1名、財満鎮明（副会長）、川上養一（副会長）、黒岩雅英（副会長）

配布資料：(1)平成28年6月9日総会資料

- ・日本真空学会の将来像を検討するために
- ・「合併協議に関する覚書」締結のお知らせ

(2)60巻1号(2017年1月号)会告

日本真空学会と日本表面科学会との合同合併検討委員会からのご報告

(3)60巻2号(2017年2月号)会告

日本真空学会の合併に関してのQ&A

(4)60巻3号(2017年3月号)会告

日本真空学会の合併に関して—説明会のご案内—

議事内容：

財満主査より上記資料に基づき日本表面科学会との合併に関する、説明および進捗状況についての報告がなされた。また、2月16日の第4回理事会において日本表面科学会と合併して発展的に新たな学会「日本表面真空学会」（英文名称 The Japan Society of Vacuum and Surface Science (JVSS)）を創設する方針とし、そのための合併契約書ならびに定款、諸規定の作成に着手合併契約書作成着手に付いての承認がなされたことを報告した。

議論は以下のとおり。

- ・資料を見ると20代の会員の減少が顕著であるが、これは退会しているのか？
⇒学生会員として入会した後、企業に就職してから退会している。
- ・会誌への広告はこれからも減少していくのか？
⇒企業の業態の変化等により減少傾向である。
- ・真空工業会は合併についてどのような見方をしているのか？工業会が離れていくことの無い様にしてほしい。
⇒工業会の理事会にて説明を行っている。その上での工業会のコメントは共同で行っている事業、真空展、資格認定試験、規格標準事業を継続できるようにしてほしいとのことであり、その他はおおむね肯定的である。合併により応用分野が広がることで企業に対しても事業機会が広がるという説明をしている。
- ・合併することにより会誌広告は増えていくのか？
⇒紙面広告のあり方そのものを検討していかなければいけないので、合併効果により増えていくとは見ていない。

- ・応物の展示会が活況であるように企業は広い範囲の場の提供を望んでいると思われるのでそこをアピールする様にしたらどうか？
⇒積極的にそのような取り組みをしていく。
- ・合併して更に大きくなる、範囲が広がる関西支部に対して本部として期待することはあるか？
⇒合併して表面側の事業が加わっていくが支部の役員の負担も考慮しながら、整理して行って頂きたい。
- ・現関西支部において九州地区の会員数が少なく、合併した際の九州支部が、誰が立ち上げるのかも含め体をなすのかどうか懸念している。
⇒九州地区で真空に関わる人材の登用も積極的に行っていきたい。但し、すぐに対等に事業を行うのは難しいと思うので当面は関西支部との連携も考えて頂きたい。
- ・表面側は幹事会の人数を半分にしたいとの意見もあるがそれについてはどの様に思うか？
⇒支部のなかの分野制をとって徐々に進めていってほしい。東海支部は規模の面からも当初から一体で進めていくことになる。
- ・昨年の総会時の説明では定款、規則を整合させて検討しなければいけないと言われていたが、今までの理事会ではそのあたりの資料を出さなければいけないのでは？資料を提示しないのであれば、それを会員に知らせるべきである。
⇒定款については照合表を理事会で提出している。規則については運用上の違いから細かく詰めることは出来ていない、また次の総会までにそれは行わないという判断である。
- ・合併後の全体像がはっきりとしていない、特に経済的な採算、会誌の充実などが見えてこない。
⇒現状で合併した場合の財務状況の検討はできており、プラスになる確認は出来ている。将来構想として、全体的なものは出来ているが具体的な採算のシミュレーション、会誌の充実構想は検討できていない。
- ・学会誌については将来的に良いものにして行くために合併を機に検討していかなければいけない
- ・合併を機に新しい学会をアピールしていかなければいけない。IUVSTA においても、他学会とも連携をはかるなどして、9つの分野で日本がリードしていくことをしなければいけない
- ・表面側は非学会員に対する招待講演者に対し旅費を出さないとのことであるが、そのような体質の学会になってはいけない。
- ・表面科学会の財政状況はどの様になっているのか？
⇒国際会議開催年、非開催年とも単年での収支は成り立っている。
- ・表面科学会の扱う真空は超高真空の分野がメインであるが、真空の分野でしか扱わない凍結乾燥などの医療分野、ガスを扱う CVD、液体水素を分圧計測する中・低真空の技術・分野において、合併をして専門性が失われることを危惧している。そのようなことにならないようにしてほしい。
⇒合併後にその分野の部会を起し積極的に活動することも検討していく。また東海支部では核融合系とも連携し積極的に取り込む活動を既に行っている。合併後もそのようなことを行っていく。

以上